

第43回岩手県勤労者美術展 入賞者

開催 2024年10月4日(金)～6日(日) 於：盛岡市民文化ホール・展示ホール(盛岡市駅西通)

審査員 絵画：日下 信介氏 写真：小川 文男氏 書道：吉田 晨風氏

出品数＝絵画19点・写真29点・書道17点 計65点

岩手県知事賞

部門	氏名	自治体	作品名
絵画	大須賀 美智子	花巻市	花と少女と猫たちと
写真	福盛田 美奈子	花巻市	厳寒に生きる
書道	川下 洋美 (子鳳)	紫波町	白楽天詩 三首

入賞者

<<絵画の部>>

賞	氏名	自治体	作品名
優秀賞	田中館 隆雄	滝沢市	霰あがりの寒村
奨励賞	屋口 新子	盛岡市	静かなる時
	今井 順子	盛岡市	悠久の空と風
佳作	柴田 和夫	盛岡市	「桜」 盛岡城跡公園
	堀米 英子	盛岡市	秋の夕暮れ
	高橋 邦枝	盛岡市	とき－薔薇とレースと－
	巣鴨 尋子	盛岡市	古木

<<写真の部>>

賞	氏名	自治体	作品名
優秀賞	北井崎 昇	盛岡市	夕遊
奨励賞	君塚 みつ子	花巻市	泣き相撲 勝負あり
	福盛田 弘	花巻市	光芒一閃
	村木 眞樹子	盛岡市	子馬がやってきた
佳作	森田 洋子	盛岡市	送り盆の終幕
	山田 恵子	盛岡市	祭りのひとコマ
	伊香 祥平	盛岡市	視線
	及川 茂輝	盛岡市	輪になって踊ろう
	松島 哲夫	盛岡市	新婚さん

<<書道の部>>

賞	氏名 (雅号)	自治体	作品名
優秀賞	中村 梨絵 (珠寶)	盛岡市	韋應物詩
奨励賞	大矢 幸一 (瑞峰)	矢巾町	豊年 (詩経)
	片方 正明	北上市	七言律詩
佳作	木内 淳子 (汀鷺)	盛岡市	友野霞舟詩
	田之岡 由美子 (青桂)	盛岡市	白楽天詩 三首
	鈴木 里美 (青穹)	盛岡市	蔣士銓詩

第43回岩手県勤労者美術展 ◇絵画の部◇審査評

開催：2024年10月4日(金)～6日(日) 於：盛岡市民文化ホール「展示ホール」

出展数：19点 審査員：^{ひした}日下^{しんすけ}信介氏

岩手県知事賞（1名）

氏名：^{おおすが}大須賀^{みちこ}美智子（花巻市） 作品名：^{はな}花と^{しょうじょ}少女と^{ねこ}猫たちと

審査評	抽象的な背景は、青を中心に黄色味を交え、リズムカルな流れ（動き）を感じさせる。その上に描かれた猫三匹と後ろ姿の少女が、その関係性を観る側に想像させ、心象的な広がりを出している。
-----	--

優秀賞（1名）

氏名：^{たなかだて}田中館^{たかお}隆雄（滝沢市） 作品名：^{みぞれ}霰^{かんそん}あがりの寒村

審査評	モノクロームに近い画面の中で、標識の青と踏切周辺の黄色の機器が、色彩的効果を出している。更にガードレールのへこみ、 ^{わだち} 轍のくねり、十字路標識の湾曲が、絵に動きとアクセントを与えている。
-----	--

奨励賞（2名）

氏名：^{やぐち}屋口^{しんこ}新子（盛岡市） 作品名：^{しず}静かな^{とき}る時

審査評	重厚な落ち着きのある画風は“静”を上手く表現している。暗過ぎる部分もあるが、その中を流れる水音が、絵の中から聞こえてくるように思える。
-----	---

氏名：^{いまい}今井^{じゅんこ}順子（盛岡市） 作品名：^{ゆうきゅう}悠久の^{そら}空と^{かぜ}風

審査評	苔むした古木の根元を丁寧に描いており、その木の歴史や生命力を感じさせる。苔の描写が巧みで、絵に空間性を持たせている。
-----	--

佳作（4名）

氏名：^{しば た かず お}柴田 和夫（盛岡市） 作品名：^{さくら もりおかじょうあとこうえん}「桜」 盛岡城跡公園

審査評	小さな画面ながら、しっかりと描かれた桜の花は、枠の外の桜の樹木さえ想像させる密度を感じさせる。背景のボカシ効果が、やや甘いような気がする。
-----	---

氏名：^{ほりまい えい こ}堀米 英子（盛岡市） 作品名：^{あき ゆう ぐ}秋の夕暮れ

審査評	ローアングルの視点で林立する木々を見上げ、伸びやかな広がりや爽やかさを上手く表現している。地面の処理が、やや安易に感じられる。
-----	---

氏名：^{たかはし くに え}高橋 邦枝（盛岡市） 作品名：^{ば ら}とき－薔薇とレースと－

審査評	横に広がる安定感のある画面を、押さえた色彩でまとめ上品な絵に仕上がっている。バラの赤が少し強すぎるきらいがある。
-----	--

氏名：^{すがも ひろ こ}巣鴨 尋子（盛岡市） 作品名：^{こ ぼく}古木

審査評	桜の大木を大胆に描いた。 どっしりとした幹の表現が印象的であるが、枝と桜の表現がやや曖昧な気がする。
-----	---

◆ 総 評 ◆

どの作品も丹精込めて描かれており、大変好感が持てます。
絵の中に込められた思いが、観る側に共感を感じさせる作品が、今回の受賞作となりました。
“絵に込める思い”と“表現する技術”を更に研鑽頂ければ幸いです。

第43回岩手県勤労者美術展 ◇写真の部◇審査評

開催：2024年10月4日(金)～6日(日) 於・盛岡市民文化ホール「展示ホール」

出展数：29点 審査員：^{おがわ}小川^{ふみお}文男氏

岩手県知事賞（1名）

氏名：^{ふくもりた}福盛田^{みなこ}美奈子（花巻市） 作品名：^{げんかん}厳寒^いに生きる

審査評	画面一面に雪降り、力強い。 画調も申し分ない。
-----	----------------------------

優秀賞（1名）

氏名：^{きたいざき}北井崎^{のぼる}昇（盛岡市） 作品名：^{ゆうゆう}夕遊

審査評	ソフトの使い方が上手だ。 内容のある画面は、その人のセンスのあるなしで決まる。
-----	--

奨励賞（3名）

氏名：^{きみづか}君塚^こみつ子（花巻市） 作品名：^な泣き相撲^{ずもう}勝負あり^{しょうぶ}

審査評	それぞれの表情が良く、幸せが画面にあふれている。
-----	--------------------------

氏名：^{ふくもりた}福盛田^{ひろし}弘（花巻市） 作品名：^{こうぼういっせん}光芒一閃

審査評	竹林に差し込む光、水面に差し込む光、静けさを想像させる。
-----	------------------------------

氏名：^{むらき}村木^{まきこ}眞樹子（盛岡市） 作品名：^{こうま}子馬がやってきた

審査評	人物と馬の有りようが完璧です。
-----	-----------------

佳作（5名）

氏名：^{もりた}森田 ^{ようこ}洋子（盛岡市） 作品名：^{おく}送り ^{ぼん}盆の ^{しゅうまく}終幕

審査評	舟っこ流しの最終場面。寂しさが残る。
-----	--------------------

氏名：^{やまだ}山田 ^{けいこ}恵子（盛岡市） 作品名：^{まつ}祭りのひとコマ

審査評	おばあさんと若い女性との対照が面白い。
-----	---------------------

氏名：^{いこう}伊香 ^{しょうへい}祥平（盛岡市） 作品名：^{しせん}視線

審査評	真ん中の馬の顔の向きが面白い。
-----	-----------------

氏名：^{おいかわ}及川 ^{しげき}茂輝（盛岡市） 作品名：^わ輪になって ^{おど}踊ろう

審査評	老人のダンス、派手な服は面白い。
-----	------------------

氏名：^{まつしま}松島 ^{てつお}哲夫（盛岡市） 作品名：^{しんこん}新婚さん

審査評	二人の笑顔は、幸せいっぱい。
-----	----------------

◆ 総 評 ◆

コンテスト審査においては、比較という行為が賞を決定します。
分かり易い写真は、口当たりは良いものですが、持続性がありません。

固定概念が崩されたものの提示は、見る者には考える楽しみを与えてくれます。

そして、プリントの美しさがあってこそ、我々は安心して写真の世界に入っていけるのです。

第43回岩手県勤労者美術展 ◇書道の部◇審査評

開催：2024年10月4日(金)～6日(日) 於・盛岡市民文化ホール「展示ホール」

出展数：17点 審査員：^{よしだ}吉田 ^{しんぷう}晨風 氏

岩手県知事賞（1名）

氏名：^{かわした}川下 ^{ひろみ}洋美（^{しほう}子鳳）（紫波町） 作品名：^{はくらくてんのし}白楽天詩 ^{さんしゅ}三首

審査評

多字数作品で、線の強さ、ゆとりのある運筆、行間の美しさなど秀でた表現の内容豊富な力作。

優秀賞（1名）

氏名：^{なかむら}中村 ^{りえ}梨絵（^{しゅほう}珠寶）（盛岡市） 作品名：^{いおうぶつのし}韋應物詩

審査評

一文字一文字の規模が大きく、墨の潤渇の美しい明るい作。

奨励賞（2名）

氏名：^{おおや}大矢 ^{こういち}幸一（^{ずいほう}瑞峰）（矢巾町） 作品名：^{ほうねん}豊年（^{しきょう}詩経）

審査評

おおらかな運筆で、思いのまま書かれた隷書は、不思議に作品に引き込まれそうな魅力がある作となっている。

氏名：^{かたがた}片方 ^{まさあき}正明（北上市） 作品名：^{しちごんりっし}七言律詩

審査評

墨量を大胆に用いて、行間の白との対比に工夫があってより規模の大きな作となっている。

佳作（3名）

氏名：木内 淳子（汀鷺）（盛岡市） 作品名：友野霞舟詩

審査評

線質の多様さが際立った作。
丁寧な書作が好感。

氏名：田之岡 由美子（青桂）（盛岡市） 作品名：白楽天詩 三首

審査評

一文字一文字をしっかりと丁寧に書き上げ、多字数をうまくまとめた力作。

氏名：鈴木 里美（青穹）（盛岡市） 作品名：蔣士銓詩

審査評

行草体を巧みに用いて、繊細ながら規模が大きく自在な筆遣いが目に留まる明るい作品。

◆ 総 評 ◆

出品作品に大作が多くなり、見ごたえのある会場となった。
学ぶ古典、その中から何を自分で学んでつかむのか、それが作品の仕上がり大きく関わってきます。
次の作品にまた新しい古典の香りがみられることを期待します。